

平成21年度調査計画及び実施状況

調査項目		実施機関		平成21年度		備考	
		林	道環	調査名称等	調査内容		
エゾシカ	エゾシカの植生への影響把握	○		知床における森林生態系保全・再生事業(広域調査)	メオト滝地区を中心に混合ベルト調査区を設置し、森林植生(林床草本含む)と採食圧を調査		
			○	遠音別岳地域におけるシレットコスミレ調査	遠音別岳周辺において、エゾシカによるシレットコスミレの食害状況を調査する。		
			○	知床半島沿岸域希少・在来植物群落調査	2005-2008年度の海岸域における希少・在来植物群落の分布調査を補足し、定点モニタリングサイトとするため斜里側のカムイワッカからウトロまでの調査を実施		
			○	知床岬草原におけるエゾシカ採食量調査	イネ科草本、ササ群落等の植生タイプごとに調査枠を設置し、枠内外の植物量を刈り取り収量差により採食量を推定する。		
			○	知床岬植生回復試験調査区モニタリング調査	3箇所の植生保護柵内外の方形区における出現種ごとの優占度、草本層の植被率及び群落高調査を実施する。		
		○	エゾシカ季節移動調査	ルサ・相泊地域において昨年度捕獲・標識付けした個体の追跡調査を実施する。			
				自然死個体分析	自然死個体分析の実施(平成21年春の知床岬における死亡確認個体数は2)	※斜里町、羅臼町、知床財団等による独自の取り組みとして主要越冬地での自然死亡状況調査等を実施中	
		○	航空センサスによる生息動向の把握	航空センサスを2~3月に実施。			
		○	ライトセンサス(日中センサス含む)による生息動向の調査	ルサ川から相泊川間(羅臼町・毎月)、峯浜地区(道・10月に一回)、幌別岩尾別地区(斜里町・春秋に5日ずつ)でのライトセンサス、真鯉地区(財団・2-3月随時)での日中センサスを実施。		※北海道・斜里町・羅臼町・知床財団で実施	
		○	知床岬における密度操作実験(試験的捕獲)	冬~春(4~5月) 知床岬でのエゾシカの密度操作実験の実施及び手法の検証 秋~冬(11月~3月)		秋~冬にかけての密度操作実験の実施方法は、他の候補地での実施を含め、エゾシカWGで検討中	
	○	隣接地区(真鯉地区含む)における狩猟による捕獲	エゾシカ可猟区における輪採制システム(輪採制)の試験的導入		*上記採食圧広域調査の一部で植生変化をモニタリング		
	○	土壌浸食線変動状況調査	知床岬の台地縁部に設置した固定杭を目印として、土壌浸食線の変動状況を調査				
ヒグマ				ヒグマの生態調査	知床半島と隣接地域に生息するヒグマの個体行動圏や移動分散等を現存の標識個体(GPSテレメトリー)と過去の捕獲個体を含む体組織標本の分析(DNA分析)で解明する。その他、食性の変化、繁殖間隔などの把握も実施	知床財団独自事業	
		○	ヒグマの管理対策のための基礎的な情報収集	国立公園、市街地周辺での出没状況や公園利用者等との軋轢に関する現状の把握		*斜里町、羅臼町委託業務、知床財団独自調査含む。	
		○	アメリカオニアザミの駆除及び効果モニタリング	知床岬周辺でのアメリカオニアザミの分布状況調査や駆除作業、駆除箇所の経過観察、駆除作業の検証及びモニタリング体制の検討等を実施。			
外来種		○	アライグマの侵入状況、捕獲調査	アライグマを対象に、侵入状況調査、被害状況調査を行うとともに、高密度かが予想される地域において箱ワナによる駆除を実施			
		○	知床国立公園及びその周辺部におけるセイヨウオオマルハナバチの侵入状況調査	セイヨウオオマルハナバチ、ジギタリス等の遺産地域内での分布状況把握及び簡易な駆除、並びに防除に向けた普及啓発を実施			
		○	道路沿いにおけるジギタリス等外来植物の除去				
鳥類	シマフクロウ		○	繁殖個体数の確認、標識調査	シマフクロウの生息状況、繁殖状況を調査し、幼鳥に標識を装着		
			○	巣箱改良(捕食者対策)	テンによる捕食を防ぐため、侵入防止のためのアタッチメントを試作、既存巣箱に設置		
	海ワシ類		○	海ワシ類渡りルート調査	北海道におけるオオワシ・オジロワシの渡りルートに関する知見をとりまとめるとともに、オオワシの渡り状況について現地調査を実施(全道での調査)		
			○	オジロワシ繁殖状況調査	オジロワシの営巣に関する情報を収集するとともに、現地調査を実施。(全道での調査)		
			○	海ワシ類冬期分布調査	斜里側知布泊~岩尾別、羅臼側麻布漁港~相泊において、冬期間月2~4回程度の海ワシ類分布調査を実施。		ウトロ、羅臼両自然保護官事務所
				オジロワシ・オオワシ飛来数調査	オジロワシ・オオワシの飛来時期に毎月2~3回、羅臼川から相泊川区間での海岸線における飛来数のカウントを実施。		※知床財団
				オジロワシ・オオワシ一斉調査	オジロワシ・オオワシの飛来時期に年1回、植別川から相泊川区間での海岸線における飛来数のカウントを実施。		※オジロワシ・オオワシ合同調査グループ
			○	海ワシ類人為的餌資源把握調査	港や水産加工場等での残滓によるオジロワシやオオワシに対する影響について実態を把握(全道での調査)		
			○	海ワシ類河川環境現状把握調査	海ワシ類の餌となる魚類生息環境の視点から、河川構造等の現状を把握(全道での調査)		
			○	オジロワシ遺伝子解析調査	遺伝的多様性等について、事故回収個体を中心に解析を実施(全道での調査)		

調査項目		実施機関		平成21年度		備考				
		林	道環	調査名称等	調査内容					
				○	塹情報収集調査	オジロワシ・オオワシの越冬期における塹情報を収集(全道での調査)				
		森林性猛禽類		○	知床半島緑の回廊における猛禽類調査	クマタカ等の生息エリアの特定と営巣状況に関するデータ把握				
		ケイマフリ			○	ケイマフリ生息調査	ケイマフリの生息海域の分布や繁殖地等の生息状況調査。また、遊覧船等の航路調査や遊覧船等の影響を受ける可能性のある海域での海鳥の分布状況調査等			
	植物	希少植物群落			○	知床半島沿岸域希少・在来植物群落調査(再掲)	2005-2008年度の海岸域における希少・在来植物群落の分布調査を補足し、定点モニタリングサイトとするため斜里側のカムイワッカからウトロまでの調査を実施(再掲)			
		植物種インベントリ作成			○	植物種インベントリ作成	北海道大学総合博物館所蔵の知床半島における植物標本の整理を行い、知床半島における植物種のインベントリを作成する。			
		植生図の作成			○	知床半島の植生図の作成	知床半島における1/5000の植生図を作成			
利用圧調査	利用状況			○	知床国立公園の利用実態調査	赤外線カウンター、現地調査等により、知床五湖等の利用拠点、知床岬等の先端部など利用者の動向や利用による自然環境への影響を把握				
陸水域生態系	河川工作物	河川工作物の影響評価		○	○	河川工作物の影響評価に資するための調査(河川環境、土砂動態)及び改良によるサケ科魚類の遡上効果の確認	WGの意見を踏まえた河川工作物の影響評価に資するための調査(河川環境、土砂動態及び遡上率、産卵状況等)			
	生態系	海域から陸域への物質輸送					カラフトマス・シロザケを捕食するヒグマの生態	年齢および社会的な関係で変化するヒグマの個体ごとのカラフトマス・シロザケを捕食する生態の調査	※野生鮭研究所 2004年から実施	
							ヒグマなどによるカラフトマス、シロザケの被捕食量に関する調査	河川に遡上するカラフトマス・シロザケの量に対してヒグマなどが捕獲する量を算定する調査	※野生鮭研究所 2004年から実施	
					○	サケ属魚類の河川遡上動態と陸域生態系への物質輸送に関する調査	主にルシャ川を対象としてサケ属魚類(カラフトマス)の産卵遡上動態を明らかにするとともに、サケ属魚類による海起源物質の陸域生態系への運搬過程を明らかにする。カラフトマスの遡上数と産卵床数の評価技術の確立、河川内に生息するオショロコマや水生昆虫、ヒグマやヤナギ等の陸上動物の安定同位体比分析を実施する。			
外来種	外来魚の侵入状況					ニジマスやブラウントラウトなどの外来種の侵入状況を把握する調査	遺産地域内とその周辺河川において、潜水目視観察を実施し、外来魚の有無を調査	知床財団実施		
海域生態系	インベントリ調査	海の生物相調査			○		知床沿岸の浅海域生物相の把握	知床半島の浅海域を対象とした魚類、無脊椎動物および海藻・海草類の採集調査		
	海藻・海草類	海藻・海草類分布調査			○		コンブ類分布状況調査	コンブ類の分布状況を音響機器を使用して調査するとともに、簡便なコンブ類の現存量把握の手法を確立する。	*岩礁潮間帯の海藻分布状況調査を実施中(知床財団)	
					○		平成21年度は休止(隔年実施)			
	海棲哺乳類	海棲哺乳類調査					海棲哺乳類モニタリング調査	小型観光船事業者からの目撃情報収集体制の構築と情報の整理・分析、陸上定点および海上からの海獣類の分布および季節変動等を調査	知床財団、北の海の動物センター、知床クラの会	
	魚介類	生態調査			○			主要魚種の食物関係調査	知床海洋生態系の主要構成生物である魚類の胃内容分析を実施し、種間関係の重要な要素である食物関係を明らかにする。	
		サケ科魚類状況調査			○			サケ科魚類調査	サケ科魚類の対象河川での遡上量(資源量)の推定、分布現況等の把握	
		漁獲量調査			○			北海道水産現勢	主要な魚介類の漁獲統計調査	
	海洋環境	海洋環境調査						アイスアルジー調査(計画案)	平成22年2月から3月にかけて、10日間ほどオホーツク海流氷内の生物学的調査(種組成、色素組成、DNA、生理活性等)を行う予定。	※服部委員
				○			羅臼沖の深海域における栄養塩類および動物プランクトン調査	動物プランクトンの出現種の特徴及び季節変化を把握し、モニタリング手法を確立する。また、羅臼町が月1回採集している深層水の栄養塩類濃度データをもとに、季節・年変化の特徴を調べ、表層域におけるイベントとの関連を把握することにより、海洋環境の簡便なモニタリング手法を検討する。		
	沿岸海洋観測			○			水温・塩分・クロロフィルなど海洋観測ブイ設置	様々な海洋生物の動態に影響する環境変動を把握するための基礎となる環境要因データをウトロ沖と羅臼沖の各1定点にて収集		
その他	データベースの整理及びGIS等による統合				○		データベースの拡充	前年度までの各種モニタリング等調査結果を追加し、必要に応じて各種計画策定に必要な図面を提供する。		
	モニタリング指標の開発				○		長期的モニタリング項目の検討	遺産地域の自然環境を適切に管理する上で重要な指標や水準を開発する。		